

【4級・解説】

リスニング

PARTE I (N1 - N4)

N1 d

【正答率】86.2%

M1: Erano due, sui trent'anni. Uno era basso e grasso, aveva i capelli corti e ricci e uno zaino sulle spalle... uno zainetto rosso. Quello più alto, invece, aveva pochi capelli... e aveva una pistola. Non ricordo altro... Ah, no, aspetti... quello basso aveva anche la barba.

【訳】(男1)彼らは2人で、30歳くらいでした。1人は背が低くて太っていて、髪は短くて縮れ、リュックサックを背負っていました……赤い小さなリュックです。背が高いほうは、それに引きかえ、髪が薄く……ピストルを持っていました。それ以外は覚えていません……いえ、違います、待ってください……背の低いほうはあごひげも生やしていました。

N2 a

【正答率】87.9%

F1: Ah che paura! Erano in due. Uno mi è passato proprio accanto... era grasso, con i capelli lunghi... biondi... La barba?... No, lui aveva i baffi... la barba ce l'aveva l'altro, quello più alto. Erano giovani, sui venti, venticinque anni... giacche di pelle...

【訳】(女1)ああ、何て恐ろしい！彼らは2人組でした。1人は私のすぐそばを通過して行きました……太っていて、髪が長く……金髪でした……あごひげですか？……いいえ、彼は口ひげを生やしていました……あごひげは、もう1人の、背の高いほうが生やしていました。彼らは若かったですよ、20歳か25歳くらいでした……レザージャケット姿で……

N3 c

【正答率】88.7%

M2: Oh, uno dei due l'ho visto molto bene! Basso, magro... con la barba e i capelli lunghi... sì, molto lunghi... Indossava un cappotto chiaro e aveva una grossa borsa in mano. L'altro, invece, l'ho visto solo per un momento. Aveva un cappellino... tipo quelli da baseball, sa?

【訳】(男2)ああ、2人のうちの1人はとてもよく見ましたよ！背が低くて、やせていて……あごひげを生やし、髪は長くて……そう、とても長かったですよ……明るい色のコートを着て、手に大きなバッグを持っていました。もう1人は、それに引きかえ、一瞬見ただけです。キャップをかぶっていました……

野球帽みたいなやつですよ。

N4 b

【正答率】83.8%

F2: Dunque, tutti e due piuttosto alti e con i capelli cortissimi. Uno aveva i baffi, l'altro no. Borse? No, non mi sembra. Però, adesso che ci penso... Sì, quello senza baffi aveva qualcosa in mano, forse una pistola.

【訳】(女2)そうですね、2人ともかなり背が高く髪はとても短かったです。1人は口ひげを生やしていましたが、もう1人は生やしていませんでした。バッグですか？いえ、それはあったような気がしません。でも、今考えてみると……そう、口ひげのないほうは手に何か持っていました。ひよっとしたら、ピストルかもしれません。

PARTE VII (N23 – N26) _____

Primo ascolto (N23-N24)

M: Domani Silvia, la mia ragazza, parte per Parigi. Ha trovato lavoro in un'importante università, per un anno. Beata lei! È una città così bella! E poi, trovare un lavoro... Lei è molto brava, d'accordo. Si è laureata a pieni voti, ha sempre studiato tanto... Però è stata anche fortunata. Sono contento per lei, però... Lei parte e io resto qui. Ecco perché sono triste, staremo lontani per molto tempo. Vorrei partire anch'io, ma non posso. Devo ancora finire l'università e studiare tanto per gli ultimi esami.

VERO FALSO

N23 Silvia è già laureata.

a b

N24 Anche lui va a Parigi a studiare.

a b

【訳】(男)明日、僕の彼女のシルヴィアは、パリにむけて出発します。彼女はある有力大学に、1年間の仕事を見つけたのです。彼女がうらやましいです！あんなにも美しい都市ですよ！その上、仕事を見つけるなんて……もちろん、彼女はとても優秀です。満点を取って卒業したし、ずっとたくさん勉強してきたし……ですが、幸運でもあったのです。僕は彼女のために満足に思いますが、でも……彼女は出発してしまい、僕はここに残るのです。そんなわけで、僕は悲しいのです。僕たちは長い間遠くにいることになるでしょうから。できれば僕も出発したいところですが、そうはいきません。僕はま

だ大学を終えなければならないし、最後の試験のためにたくさん勉強しなければならないのです。

N23 a 【正答率】56.0%
【訳】シルヴィアはすでに大学を卒業した

N24 b 【正答率】55.8%
【訳】この男性もパリに勉強に行く

Secondo ascolto (N25-N26)

M: Ciao, Stefania, ti cercavo.

F: Oh, ciao Lorenzo!

M: Stasera noi andiamo in discoteca. Vuoi venire?

F: In discoteca? Stasera? Stasera ho appuntamento con Francesca.

M: Perché non venite insieme?

F: Per me va bene, ma non so se a lei...

M: Dai! Ci divertiamo!

F: Facciamo così: sento cosa mi dice e poi ti chiamo, d'accordo?

M: Va bene, dai. Aspetto la tua telefonata.

F: D'accordo.

VERO **FALSO**

N25 Stefania non ha voglia di andare a ballare a b

N26 Lorenzo deve telefonare a Francesca a b

【訳】(男)こんにちは、ステファニア、君を探していたんだ。(女)ああ、こんにちは、ロレンツォ！(男)今晚、僕たちはディスコに行くんだ。君、来ないかい？(女)ディスコに？今晚？今晚は私、フランチェスカと約束があるの。(男)一緒に来たらどう？(女)私は構わないけど、彼女がどうかわからないわ……(男)いいじゃないか！楽しもうよ！(女)こうしましょう。彼女が何て言うか聞いて、それからあなたに電話するわ、いい？(男)いいとも。君の電話を待っているよ。(女)わかったわ。

N25 b 【正答率】67.9%
【訳】ステファニアは踊りに行きたくない

N26 b 【正答率】61.3%
【訳】ロレンツォはフランチェスカに電話しなければならない

PARTE II (N49 - N55)

N49 d 【正答率】74.9%

【訳】「頼むよ、外出したら、タバコを1箱買って来てくれない?」「いいよ」

【解説】タバコの単位や容れ物としては、a)「100グラム」、b)「小瓶」、c)「小さな袋」のいずれでもなく、d)の「パッケージ」が適当です。

N50 c 【正答率】60.4%

【訳】「アンナ、頼むから、夕食に何を食べたいか母さんに聞いてくれよ」

【解説】選択肢の中で「尋ねる」という意味で使う動詞は c)の *chiedere* です。ここでは <chiedere + 疑問詞で始まる間接疑問文>の形になっています。a)「話す」、b)「聞く」、d)「聞く」のいずれにも、このような用法はありません。

N51 a 【正答率】64.7%

【訳】「どう思う?海に行こうか?」「うん、そうしよう!素晴らしい思いつきだよ!僕はぜひとも海水浴をしたい!」【解説】<fare il bagno>は「海水浴をする」という意味の決まった表現です。

N52/53

【訳】「散歩しない?」「あいにく、今は時間がないんだよ。何なら、後でね」

N52 b 【正答率】47.5%

【解説】名詞*passo*を用いた熟語「散歩をする」は<fare due passi>あるいは<fare quattro passi>なので、選択肢の中ではb)が正解です。

N53 b 【正答率】64.7%

【解説】<avere tempo>は「時間がある、暇がある」という意味の決まった表現です。したがって、正解はb)です。

N54/55

【訳】「すみませんが、徒歩で駅にたどり着くには、どれくらい時間がかかりますか?」「10分くらいです」

N54 d 【正答率】62.8%

【解説】*volerci*は「～が必要である、～がかかる」という意味の決まった表現

です。必要なもの(ここではtempo「時間」)が文の主語になるので、それに合わせて動詞は3人称の単数形か複数形になります。したがって、d)のci vuoleが正解です。

N55 a

【正答率】70.4%

【解説】<a piedi>は「徒歩で」を意味する熟語です。b)の<in piedi>も熟語ですが「立って」という意味なので、ここでは不適切です。

PARTE III (N56 – N62)

【訳】イタリア人にはフレッド・ブスカリオーネという芸名で知られているフェルディナンド・ブスカリオーネは、1921年にトリノで、ピエモンテの小さな村出身のある一家の出です。活発な子供で、幼いころから音楽に対して大きな熱意を示します。11歳で音楽学校に入学しますが、3年後には退学します。クラシック音楽にはほとんど興味がなかった上、自分の家族が経済的な問題を抱えていたため、職を探したいとも思っていたのです。彼はいろいろな楽器を演奏でき、たちまち町のあちこちのナイトクラブに、ジャズ演奏家兼歌手として出演し始めます。彼のレオ・キオツとの出会いはこの時期のことですが、キオツは当時大学生で、推理小説の愛読者でした。彼とはのちに長年にわたるアーティストとしての協力を始めることになります。戦争が勃発すると彼はサルデーニャに送られ、そこで他の兵隊たちのために出し物を企画します。アメリカ軍の捕虜になると、合衆国から来た新しいリズムに影響を受けながら、彼らと協力して音楽活動をし続けます。戦争が終わると彼はトリノに戻り、最初は他人のオーケストラで、その後は自分自身のバンドとともに、ナイトクラブで再び演奏し始めます。ここでレオ・キオツとも再会し、2人は共同で作曲を始めます。彼らの協力関係はとても緊密だったので、同じ建物の向かいあった2つのマンションに移り住んだほどでした。こうして「Che bambola (何ていい女なんだろう)」「Teresa non sparare (テレーザ、撃たないで)」「Eri piccola così (君はこんなに小さかった)」など、彼らの最も有名な歌の多くが生まれます。彼らがモチーフにしたのは、ウイスキー、タフな男たち、魅力的な女たちで、クラーク・ゲーブル風の細い口ひげを生やしたフレッドは、ルックスもシカゴやニューヨークのアメリカのギャングをふざけて面白おかしく真似します。その間に、1949年には、キャバレーで知り合ったマグレブ人の芸人、ファティマ・ベン・エンバレクに恋をします。ですが彼女の父親は許しません。そこで2人はロマンチックな逃避行を計画し、結婚します。1955年には彼の最初のレコードが出、ほぼ百万枚近くを売り上げます。50年代末にはすでに、イタリアで最も有名なショーマンの1人でした。1959年、おそらくはちょっとした嫉妬がもとで、ファティマとの結婚生活

が危機を迎えて、2人は別れますが、翌年再び会って、彼らのラブストーリーは再開できるかに思えます。しかしフレッドにはその時間はないのです。彼は 1960 年2月3日の朝、ローマで、わずか 38 歳で、自動車事故のため亡くなるのです。

(ウィキペディア「フレッド・ブスカリオネ」の項目に加筆)

N56 a 【正答率】79.2%

【訳】彼の本名はフェルディナンドだった

N57 a 【正答率】75.8%

【訳】彼は音楽学校で3年間勉強した

N58 b 【正答率】68.1%

【訳】彼は音楽学校でレオ・キオツと出会った

N59 b 【正答率】64.3%

【訳】彼はレオ・キオツと一緒に推理小説も書いた

N60 b 【正答率】71.3%

【訳】戦後フレッドは合衆国に移り住んだ

N61 b 【正答率】66.6%

【訳】結婚パーティーの間、フレッドとファティマと一緒にロマンチックな歌を歌った

N62 a 【正答率】53.0%

【訳】1959年にフレッドとファティマは別れた